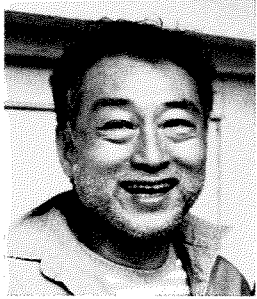


長倉洋海（ながくら・ひろみ）プロフィール



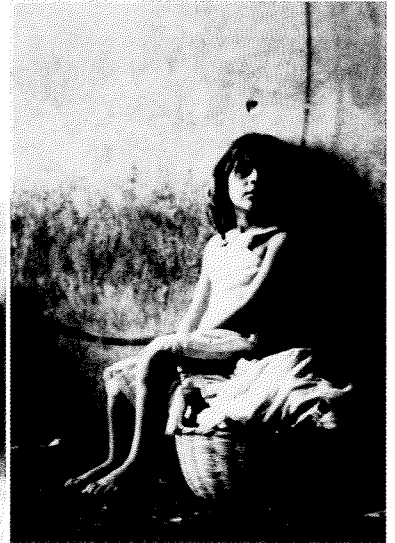
写真家。1952年、北海道釧路市で生まれる。京都での大学生時代は探検部に所属し、手製イカダによる日本海漂流やアフガン遊牧民調査などの探検行をする。1980年、勤めていた通信社勤務を辞め1980年よりフリーランスとなる。以降、世界の紛争地を精力的に取材する。中でもアフガニスタン抵抗運動の指導者マスードやエル・サルバドルの難民キャンプの少女ヘスースなどを長いスパンで撮影。戦争の表層ではなく、そこに生きる人間そのものを捉えようとするカメラ・アイは写真集「マスード 愛しの大地アフガン」「サルバドル 救世主の国」に結実し、第12回土門拳賞、日本写真協会年度賞などを受賞した。

2004年、テレビ放映された「課外授業・ようこそ先輩—世界に広がれ笑顔の力」はカナダ・バンフの国際テレビ祭で、青少年・ファミリー部門の最優秀賞ロッキー賞を受賞。2006年には、フランス・ペルピニャンの国際フォト・ジャーナリズム祭に日本人初の写真家として招かれ、「マスード敗れざる魂」を開催。

2017年には東京都写真美術館で「長倉洋海の眼—地を這い、未来に駆ける」を開催。同年9月NHK・ETV特集で「アフガニスタン 山の学校の記録—マスードと写真家長倉洋海の夢」を放映。

2004年から「アフガニスタン 山の学校支援の会」の活動を続け、故郷・釧路で実家の店舗を使った、世界を知るための「長倉商店 塾」（2015年～）を始めた。

掲載の写真は長倉洋海氏の写真集「ともだち」（偕成社）より



写真集に「サルバドル 救世主の国」「マスード 愛しの大地アフガン」（ともにJICC出版）、「西域の貌」（山と溪谷社）「人間交路シルクロード」（毎日新聞）、「地を駆ける」（平凡社）、「その先の世界へ」（クレヴィス）など。著書にフォトジャーナリストの眼（岩波新書）、「ぼくが見てきた戦争と平和」（バジリコ）、「私のフォトジャーナリズム」（平凡社新書）などがある。近年の写真集としては「世界は広く、美しい—地球をつなぐ色」（新日本出版。全6巻）、「いのる」「はたらく」「まなぶ」（アリス館）著書に「セレクション集「Hiromi Nagakura」（未来社。全五巻）がある。

☆お申込方法 8月19日（月）10時より受付開始

◆ホームページから◆

<http://www.unicef-kagawa.gr.jp>



◆お電話で◆

087-813-0772

◆FAXで◆下記フォームに必要事項

をご記入の上送信してください。

087-813-0772

代表者氏名

ご住所

お電話番号（日中ご連絡の取りやすい番号をご記入ください）

FAX

代表者以外の参加者氏名

※ お申込に際しご提供いただきました個人情報は、当協会にて適切に管理し、15周年事業講演会に関するご連絡のほか、当協会が主催するイベント等のご案内のみに使用いたします。